

平成 30～令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
総合研究報告書 (H30-医薬-一般-004)
危険ドラッグ及び関連代謝物の有害作用解析と乱用実態把握に関する研究

分担研究報告書 [3 年間のまとめ]

新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立

分担研究者 嶋根 卓也 (国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部)
研究協力者 猪浦 智史 (国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部)
研究協力者 山田 理沙 (国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部)

【研究概要】

[研究テーマ：新規危険ドラッグの乱用実態把握のための効果的な調査手法の確立]

[緒言] 近年、危険ドラッグの流行が沈静化する一方で、大麻使用者の増加が報告されている。使用される大麻の形状が多様化しており、大麻ワックスや大麻リキッドといった THC を濃縮・抽出した製品や、食品に混入した大麻クッキーなど (食用大麻) が押収されているが、地域における乱用実態は依然として不明である。そこで、本研究では、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして野外フェスティバルの来場者を対象とした調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることを目的とした。

[方法] 対象は、関東地方で開催された音楽関連の野外イベント (野外フェスティバル) に参加した 16 歳以上の来場者であった。計 2 回のイベントで、携帯端末やタブレットを活用したオンライン調査を実施し、計 437 名より有効回答を得た。大麻の使用経験に基づき、大麻使用経験の無い Non-users (n=382)、大麻使用経験はあるが、1 年以内の使用がない Ex-users (n=44)、過去 1 年以内に大麻を使用した Current-users (n=11) の 3 群に分類した。

[結果]

1. 大麻の生涯経験率は 12.6%、過去 1 年経験率は 2.5%であった。
2. 使用した大麻の形状は、乾燥大麻 (10.5%)、大麻樹脂 (4.6%)、食用大麻 (2.7%)、大麻リキッド (1.4%)、大麻ワックス (1.1%) であった。
3. 大麻使用時の併用薬物は、アルコールが最も多く (64.7%)、タバコ (55.9%)、覚せい剤 (23.5%)、危険ドラッグ (17.6%)、コカイン (17.6%) と続いた。
4. 大麻使用と飲酒との関連は、過去 1 年間の飲酒率は Non-users (81.4%)、Ex-users (61.4%)、Current-users (100%) であった ($p=0.003$)。過去 30 日間の飲酒率は、Non-users (68.6%)、Ex-users (54.5%)、Current-users (81.8%) であった ($p=0.102$)。過去 30 日間のビンジ飲酒率は、Non-users (42.7%)、Ex-users (38.6%)、Current-users (72.7%) であった ($p=0.113$)。
5. 北米における大麻合法化に対する考えは、Non-users は、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」が 52.4%と最も多かった。Ex-users および Current-users は「どのような目的でも賛成」という回答が最も多かった (Ex-users : 40.9%、Current-users : 90.9%) ($p<0.001$)。

[考察] 一般住民に比べて高い大麻使用率が観察された。従来の乾燥大麻や大麻樹脂のみならず、食用大麻、大麻リキッド、大麻ワックスなど新たな形状の大麻の乱用実態が確認された。本研究

のデータからは大麻使用者におけるアルコール関連の問題性は見いだせなかった。国内の大麻使用者の多くが北米における大麻合法化（医療目的、嗜好目的の両方）に賛同していた。大麻使用経験のない者であっても、大麻の医療目的での利用については賛同していた。

[結論] 本研究では、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして、音楽系の野外イベント（野外フェスティバル）に着目し、来場者を対象とした実態調査を通じて、大麻の乱用実態を把握する試みを行った。本研究で確立された調査手法は、短期間かつ低予算で地域における薬物乱用の実態を掘り下げることができ、今後の新規危険ドラッグの乱用実態を把握するために応用できると結論付けた。ただし、レクリエーション・セッティングで捕捉できる調査対象者に代表性はないため、一般住民調査のような代表性のある調査データと組み合わせる上で乱用実態を捉えることが必要である。

緒言

近年、危険ドラッグの流行が沈静化する一方で、大麻使用者の増加が報告されている。2019年に実施された薬物使用に関する全国住民調査によれば、大麻使用の生涯経験率は1.8%（推計値）であり、これは調査が開始された1995年以降で最も高い数字となった。調査対象となった15～64歳の人口に換算すると、生涯経験者数は全国で約160万人に該当する。

使用される大麻の形状が多様化しており、大麻ワックスや大麻リキッドといったTHCを濃縮・抽出した製品や、食品に混入した大麻クッキーなど（食用大麻）が押収されているが、地域における乱用実態は依然として不明である。そこで、本研究では、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして音楽系の野外イベント（野外フェスティバル）の来場者を対象とした調査を通じて、大麻使用者の特徴を明らかにすることを目的とした。

1) レクリエーション・セッティングにおける大麻の乱用実態（1-2年目）

1-2年目は、レクリエーション・セッティングにおいてデータコレクションを行った。対象は、関東地方で開催された野外フェスティバルに参加した16歳以上の来場者であった。計2回のイベントで、携帯端末やタブレットを活用したオンライン調査を実施し、計437名より有効回答を得た。主たる結果は次の通りであった。

1. 大麻の生涯経験率は12.6%、過去1年経験率は2.5%であった。
2. 使用した大麻の形状は、乾燥大麻（10.5%）、大麻樹脂（4.6%）、食用大麻（2.7%）、大麻リキッド（1.4%）、大麻ワックス（1.1%）であった。
3. 大麻使用時の併用薬物は、アルコールが最も多く（64.7%）、タバコ（55.9%）、覚せい剤（23.5%）、危険ドラッグ（17.6%）、コカイン（17.6%）と続いた。

薬物使用に関する全国住民調査（2019年）によれば、15～64歳の一般住民における大麻の生涯経験率は、1.8%、過去1年経験率は0.10%と報告されている。これに比べて、レクリエーション・セッティングにおける大麻の使用率は極めて高く、薬物使用者が多い集団であることが確認された。

また、従来から乱用の対象となっている乾燥大麻や大麻樹脂のみならず、食用大麻、大麻リキッド、大麻ワックスなど新たな形状の大麻の乱用実態が確認された。

2) 大麻使用者の特徴に関する分析（3年目）

3年目は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今年度は多くの野外フェスティバルが開催中止となり、新たな情報を収集することができなかった。そこで、1-2年目の研究で取得したデータを再分析し、大麻使用実態に関する新たな知見を得ることを目的とした。具体的には、1) 大麻使用とアルコール摂取との関係性を明ら

かにすること、2) 海外における大麻の合法化(非犯罪化)が、レクリエーション・セッティングの対象者に与える影響を調べることを目的とした。主たる結果は次の通りであった。

1. 飲酒に関する結果は、過去1年間の飲酒率は Non-users (81.4%)、Ex-users (61.4%)、Current-users (100%) であった ($p=0.003$)。過去30日間の飲酒率は、Non-users (68.6%)、Ex-users (54.5%)、Current-users (81.8%) であった ($p=0.102$)。過去30日間のビンジ飲酒率は、Non-users (42.7%)、Ex-users (38.6%)、Current-users (72.7%) であった ($p=0.113$)。
2. 北米における大麻合法化に対する考えは、Non-users は、「医療目的は賛成だが、嗜好目的は反対」が 52.4%と最も多かった。Ex-users および Current-users は「どのような目的でも賛成」という回答が最も多かった (Ex-users : 40.9%、Current-users : 90.9%) ($p<0.001$)。

過去1年以内に大麻の使用経験を有する Current-users の飲酒率(過去1年間)、飲酒率(過去30日間)、ビンジ飲酒率(過去30日間)は、他の群に比べて高いという結果が得られたが、統計学的に有意な差は認められなかった。本研究のデータからは大麻使用者におけるアルコール関連の問題性は見いだせなかった。国内の大麻使用者の多くが北米における大麻合法化(医療目的、嗜好目的の両方)に賛同していた。大麻使用経験のない者であっても、大麻の医療目的での利用については賛同していた。

【総括】

本研究では、薬物使用者が多いレクリエーション・セッティングの一つとして、音楽系の野外イベント(野外フェスティバル)に着目し、来場者を対象とした実態調査を通じて、大麻の乱用実態を把握する試みを行った。本研究で確立された調査手法は、短期間かつ低予算で地域における薬物乱用の実態を掘り下げることができ、今後の新規危険ドラッグの乱用実態を把握するために応用できると結論付けた。ただし、

レクリエーション・セッティングで捕捉できる調査対象者に代表性はないため、一般住民調査のような代表性のある調査データと組み合わせる上で、乱用実態を捉えることが必要である。

【研究業績】

1. 論文発表

- 1) Shimane T, Takahashi M, Kobayashi M, Takagishi Y, Takeshita Y, Kondo A, Omiya S, Takano Y, Yamaki M, Matsumoto T. Gender differences in the relationship between methamphetamine use and high-risk sexual behavior among prisoners: A nationwide, cross-sectional survey in Japan. *Journal of Psychoactive Drugs*, 2021. (in press)
- 2) Kondo A, Shimane T, Takahashi M, Takeshita Y, Kobayashi M, Takagishi Y, Omiya S, Takano Y, Yamaki M, Matsumoto T. Gender Differences in Triggers of Stimulant Use Based on the National Survey of Prisoners in Japan. *Subst Use Misuse*. 2021;56 (1) :54-60. doi: 10.1080/10826084.2020.1833930. Epub 2020 Oct 24. PMID: 33100112.
- 3) Inoura S, Shimane T, Kitagaki K, Wada K, Matsumoto T. Parental drinking according to parental composition and adolescent binge drinking: findings from a nationwide high school survey in Japan. *BMC Public Health*. 2020;20 (1) :1878. <http://doi.org/10.1186/s12889-020-09969-8>.
- 4) Yamada R, Shimane T, Kondo A, Yonezawa M, Matsumoto T. The relationship between severity of drug problems and perceived interdependence of drug use and sexual intercourse among adult males in drug addiction rehabilitation centers in Japan. *Subst Abuse Treat Prev Policy*. 2021 Jan 7;16 (1) :5. doi: 10.1186/s13011-020-00339-6. PMID: 33413509; PMCID: PMC7791778.
- 5) Matsumoto T, Kawabata T, Okita K, Tanibuchi

- Y, Funada D, Murakami M, Usami T, Yokoyama R, Naruse N, Aikawa Y, Furukawa A, Komatsuzaki C, Hashimoto N, Fujita O, Umemoto A, Kagaya A, Shimane T. Risk factors for the onset of dependence and chronic psychosis due to cannabis use: Survey of patients with cannabis-related psychiatric disorders. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2020 Dec;40 (4) :332-341. doi: 10.1002/npr2.12133. Epub 2020 Sep 7. PMID: 32896111; PMCID: PMC7722680.
- 6) Takeshima M, Otsubo T, Funada D, Murakami M, Usami T, Maeda Y, Yamamoto T, Matsumoto T, Shimane T, Aoki Y, Otowa T, Tani M, Yamanaka G, Sakai Y, Murao T, Inada K, Yamada H, Kikuchi T, Sasaki T, Watanabe N, Mishima K, Takaesu Y. Does cognitive behavioral therapy for anxiety disorders assist the discontinuation of benzodiazepines among patients with anxiety disorders? A systematic review and meta-analysis. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2021 Jan 15. doi: 10.1111/pcn.13195. Epub ahead of print. PMID: 33448517.
 - 7) Tanibuchi Y, Matsumoto T, Funada D, Shimane T : The influence of tightening regulations on patients with new psychoactive substance-related disorders in Japan. *Neuropsychopharmacol Rep*. 38(4), 189-196, 2018.
 - 8) 嶋根卓也, 邱 冬梅, 和田 清 : 日本における大麻使用の現状 : 薬物使用に関する全国住民調査 2017 より, *YAKUGAKU ZASSHI*, 140 (2) ,173-178, 2020.
 - 9) 嶋根卓也. 薬物乱用状況のアップデート : 薬物使用に関する全国住民調査 2019 より. *Newsletter KNOW (麻薬・覚せい剤乱用防止センター)*、第 103 号、p2-5,2020.
 - 10) 嶋根卓也 : 薬物依存症者の理解とサポート、*法律のひろば* 74 (1) , 57-66, 2021.
 - 11) 嶋根卓也 : 薬物乱用防止のために地域の薬局ができること、*調剤と情報* 27 (1) , 89-96,2021.
 - 12) 嶋根卓也: 第 8 章 性的マイノリティ・HIV 感染者の理解と支援. 物質使用障害の治療 多様なニーズに応える治療 回復支援 (松本俊彦編著), 金剛出版, 東京, pp141-155, 2020.
 - 13) 嶋根卓也 : 第 12 章 薬物乱用防止教育とスティグマ. *アディクション・スタディーズ 薬物依存症を捉えなおす* 13 章 (松本俊彦編), 日本評論社, pp201-214, 2020.
 - 14) 嶋根卓也 : 日本における薬物乱用のモニタリング調査と回復支援プログラムについて. *龍谷法学* 50(3) : 1805-1812, 2018.
 - 15) 嶋根卓也 : 【IV. 知っておきたい! 生活サポート&性教育】40 薬物乱用. *小児科* 50 (5) 4 月臨時増刊号「思春期を診る!」: 774-780, 2018.
 - 16) 嶋根卓也 : 薬物乱用防止の最前線 : 薬剤師に知ってほしいこと. *Excellent Pharmacy* 5 月 1 日号, pp11-13, 2018.
 - 17) 嶋根卓也 : 薬物乱用防止における薬剤師の役割. *ファルマシア* 54(6) : 541-543, 2018.
 - 18) 嶋根卓也 : 「NO」と言えない子どもたちー酒・タバコ・クスリと援助希求. *こころの科学 №202* : 47-51, 2018.
 - 19) 嶋根卓也 : 薬物使用の最新動向 : 大麻からエナジードリンクまで、*KNOW NEWS LETTER* 99 号,p2-5,2018.
 - 20) 嶋根卓也, 松本俊彦 : 2. 評価尺度の解説 (2) 薬物使用障害の評価尺度. *新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン*, 第 1 章 総論 II 診断総論, 新興医学出版社, 東京, pp11-13, 2018.
 - 21) 嶋根卓也, 松本俊彦 : 2. 薬物乱用・依存の疫学. *新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン*, 第 1 章 総論 IV 疫学, 新興医学出版社, 東京, pp28-31, 2018.
 - 22) 嶋根卓也, 高橋哲, 竹下賀子, 小林美智子, 高岸百合子, 大宮宗一郎, 近藤あゆみ, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦 : 覚せい剤事犯者における薬物依存の重症度と再犯との関連性 : 刑事施設への入所回数から見た再犯、*日本アルコール・薬*

- 物医学会雑誌 54(5),211-221, 2019.
- 23) 嶋根卓也: 過量服薬に対する薬剤師の役割. 臨床精神薬理 22(3), 293-299, 2019.
 - 24) 嶋根卓也, 猪浦智史: わが国における大麻使用の動向-全国規模の疫学調査の結果から、医学のあゆみ 271(11),1187-1191, 2019.
 - 25) 嶋根卓也: 国内外における大麻使用経験率-疫学調査から-, 精神科治療学 35(1),5-12, 2020.
 - 26) 嶋根卓也: 「NO」と言えない子どもたちー酒・タバコ・クスリと援助希求. 「助けて」が言えない SOS を出さない人に支援者は何が出来るか (松本俊彦編), 日本評論社, pp92-101, 2019.
 - 27) 嶋根卓也: 第 8 章 性的マイノリティ・HIV 感染者の理解と支援. 物質使用障害の治療 多様なニーズに応える治療 回復支援 (松本俊彦編著), 金剛出版, 東京, pp141-155, 2020.
 - 28) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻麻理子, 長与由紀子, 松本俊彦: 薬物使用経験のある HIV 陽性者において危険ドラッグ使用が服薬アドヒアランスに与える影響、日本エイズ学会雑誌 20(1): 32-40, 2018.
 - 29) 佐々木真人, 堀岡広稔, 村岡謙行, 長崎大武, 田村昌士, 西村直祐, 長田良和, 戸田憲, 宮田祥一, 西森康夫, 嶋根卓也: 薬局薬剤師を対象としたゲートキーパー研修会が知識・自己効力感・臨床行動に与える影響, 日本薬剤師会雑誌, 70(7):849-857, 2018.
 - 30) 山田理沙, 嶋根卓也, 船田正彦: レクリエーショナル・セッティングにおける危険ドラッグ使用パターンの男女別検討, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 54 (6) ,272-285, 2020.
 - 31) 谷真如, 高野洋一, 高宮英輔, 嶋根卓也: 覚せい剤取締法違反により刑事施設に入所した刑の一部執行猶予者の心理・社会的特徴, 犯罪心理学研究, 57 (2) ,1-15, 2020.
2. 学会発表
 - 1) Shimane T ,Wada K , Qiu D : Prevalence of binge drinking and association with substance use : A cross-sectional nationwide general population survey in Japan. 19th World Congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism(ISBRA2018), Kyoto, Japan, 2018.9.12
 - 2) Shimane T,Tani M, Yamaki M, Kobayashi M , Kondo A , Takahashi M : Methamphetamine users in Japanese prisons : Comorbid hazardous alcohol consumption. 19th World Congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism(ISBRA2018), Kyoto, Japan, 2018.9.12
 - 3) Shimane T : Drug use and addiction in Japan: Increase and decrease with new psychoactive substances. The 20th International Society of Addiction Medicine Annual Meeting(ISAM BUSAN 2018), Busan, Republic of Korea, 2018..11.4.
 - 4) Shimane T: Increase Cannabis Users in Japan: Findings from nationwide general population survey on drug use in 2017. 2019 Expert meeting on the indicator, prevalence and patterns of drug use, EMCDDA, Lisbon, Portugal, 2019.5.28-29.
 - 5) Shimane T: Misuse of medicines among patients with substance use disorders in Japan: findings from Nationwide Mental Hospital Survey. Problem Drug Use (PDU) 2019 Expert meeting, EMCDDA, Lisbon, Portugal, 2019.5.27-28.
 - 6) Shimane T, Tachimori H, Qiu D, Wada K : Increase cannabis users in Japan: findings from nationwide general population survey on drug use 2017. 11th Thailand Substance Abuse Conference. International Influence on Drug Abuse, Bangkok, Thailand, 2019.8.7-9.
 - 7) Shimane T: Drug policy and epidemiology of

- drug use in Japan: results from nationwide surveys, Taiwan and Japan friendship seminar on Substance use and HIV/AIDS treatment, Tokyo, Japan, 2019.10.29.
- 8) Yamaki M, Takeshita Y, Takahashi M, Kondo A, Shimane T : Prevalence and correlates of adverse childhood experience(aces)among methamphetamine users in Japanese prison . 19th World Congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism(ISBRA2018), Kyoto, Japan, 2018.9.11
 - 9) Inoura S, Shimane T, Kitagaki K, Tachimori H, Qiu D, Wada K : Changing Trends in Substance Use among Japanese Adolescents from Nationwide Junior High School Survey. 11th Thailand Substance Abuse Conference. International Influence on Drug Abuse, Bangkok, Thailand, 2019.8.7-9.
 - 10) Yamada, R., Shimane, T., Kondo, A., Yonezawa, M. and Matsumoto, T. The relationship between the perception of “drugs–sex connection” with unprotected sex behavior in rehabilitation centers for drug addiction in Japan. the CINP 2021 Virtual World Congress, 26-28 February, 2021.
 - 11) 嶋根卓也, 近藤あゆみ, 米澤雅子, 近藤恒夫, 松本俊彦 : 民間支援団体利用者のコホート調査と支援の課題に関する研究 (第二報). シンポジウム 33 刑の一部執行猶予制度施行後における薬物依存症地域支援の現状と課題. 第 114 回日本精神神経学会学術総会, 兵庫, 2018.6.21.
 - 12) 嶋根卓也 : 危険ドラッグ問題の行方 : 全国住民調査 2015 年の結果より. 第 22 回埼玉県薬剤師会学術大会, 埼玉, 2016.11.6.
 - 13) 大西真由美, 尾崎敬子, 嶋根卓也 : 国際保健と疫学～フィールドとアカデミアをつなぐために. 第 33 回日本国際保健医療学会学術大会シンポジウム, 東京, 2018.12.1.
 - 14) 和田清, 合川勇三, 森田展彰, 嶋根卓也 : 薬物乱用・依存症者における HIV・HCV 等感染状況と感染ハイリスク行動に関する研究. 平成 29 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 神奈川, 2017.9.9.
 - 15) 嶋根卓也, 邱冬梅, 和田清 : 一般住民におけるカフェイン製剤使用状況と薬物使用との関連 : 薬物使用に関する全国住民調査より. 平成 30 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 京都, 2018.9.10.
 - 16) 嶋根卓也, 邱冬梅, 和田清 : 一般住民におけるエナジードリンク使用状況と薬物使用との関連 : 薬物使用に関する全国住民調査より. 平成 30 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 京都, 2018.9.10.
 - 17) 嶋根卓也, 邱冬梅, 和田清 : 一般住民における大麻使用の増加 : 薬物使用に関する全国住民調査より. 平成 30 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 京都, 2018.9.10.
 - 18) 引土絵未, 岡崎重人, 加藤隆, 山本大, 山崎明義, 松本俊彦, 嶋根卓也 : 回復支援施設における TC エンカウンター・グループの適用に関する研究. 平成 30 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 京都, 2018.9.10.
 - 19) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻麻理子, 長与由紀子, 松本俊彦 : 薬物使用経験のある HIV 陽性者における亜硝酸エステル使用が服薬アドヒアランスに与える影響. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.12.4.
 - 20) 嶋根卓也 : 中毒診療における薬剤師の役割. シンポジウム 4 多職種関連シンポジウム～多職種で挑む中毒診療の「わ」～. 第 41 回日本中毒学会総会・学術集会, 埼玉, 2019.7.21.
 - 21) 嶋根卓也 : 覚せい剤事犯者の入所度数と薬物依存との関連. シンポジウム 9 覚せい剤

- 事犯者の理解とサポート. 第 54 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 北海道, 2019.10.5.
- 22) 嶋根卓也: 薬物使用と生活に関する全国高校生調査 2018. シンポジウム 18 依存症の実態調査: 依存症対策全国センター平成 30 年度成果報告, 第 54 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 北海道, 2019.10.6.
- 23) 嶋根卓也: 学校薬剤師による「ダメ、ゼッタイ」で終わらせない薬物乱用防止教室. 第 52 回日本薬剤師会学術大会 分科会 19 「薬物乱用防止教室の原点にかえる」, 山口, 2019.10.14.
- 24) 船田正彦, 嶋根卓也, 富山健一, 三島健一: 日本における大麻使用の現状: 薬物使用に関する全国住民調査 2017 より. 一般シンポジウム S58 薬物乱用のトレンド: ポスト危険ドラッグとして的大麻問題を考える. 日本薬学会第 139 年会, 千葉, 2019.3.23.
- 25) 山田理沙, 嶋根卓也, 船田正彦: レクリエーショナル・セッティングにおける危険ドラッグ使用の実態調査. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 北海道, 2019.10.5.
- 26) 引土絵未, 岡崎重人, 加藤隆, 山本大, 山崎明義, 松本俊彦, 嶋根卓也: 民間回復支援施設における治療共同体 エンカウンター・グループの効果について. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 北海道, 2019.10.5.
- 27) 猪浦智史, 嶋根卓也, 北垣邦彦, 和田清, 松本俊彦: 全国の高校生における両親の飲酒頻度と生徒の暴飲の関連について. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 北海道, 2019.10.5.
- 28) 喜多村真紀, 嶋根卓也, 小林美智子, 近藤あゆみ, 伴恵理子, 大宮宗一郎, 高岸百合子, 松本俊彦: 覚せい剤の早期使用と小児期逆境体験との関連: 全国の刑務所における「薬物事犯者に関する研究」より. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 北海道, 2019.10.5.
- 29) 近藤あゆみ, 嶋根卓也, 高橋哲, 竹下賀子, 小林美智子, 高岸百合子, 大宮宗一郎, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: 全国刑事施設からみた覚せい剤事犯者の性差. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度 研究報告会, 東京, 2020.3.2.
- 30) 猪浦智史, 嶋根卓也, 北垣邦彦, 和田清, 松本俊彦: 全国の高校生における親の飲酒習慣と生徒の暴飲との関連. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 令和元年度 研究報告会, 東京, 2020.3.2.
- 31) 嶋根卓也, 小林美智子, 高橋哲, 竹下賀子, 高岸百合子, 大宮宗一郎, 近藤あゆみ, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポート: 性差に着目した分析、覚せい剤事犯者における薬物依存症の重症度と再犯との関連: 性差に着目した分析. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 32) 嶋根卓也: シンポジウム 4「オピオイド鎮痛薬、乱用のその先」, 仲間と共に回復する薬物依存-ダルク追っかけ調査より-. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 33) 嶋根卓也: シンポジウム 6「HIV 感染症と薬物使用 (依存) の予防」, Understanding and supporting drug users with HIV infection in Japan. 第 34 回日本エイズ学会学術集会, Web, 2020.11.27-29.
- 34) 児玉知子, 大澤絵里, 浅見真理, 戸次香奈江, 松岡佐織, 嶋根卓也, 松本俊彦, 三浦宏子, 樺田尚樹, 横山徹爾: 日本における Universal Health Converge の達成状況と課題. 第 35 回日本国際保健医療学会学術大会日本国際保健医療学会, Web 2020.11.1-3.
- 35) 高岸百合子, 嶋根卓也, 小林美智子, 高橋哲, 竹下賀子, 大宮宗一郎, 近藤あゆみ, 高野洋一, 山木麻由子, 松本俊彦: ミニセッション S5「覚せい剤事犯者の理解とサポ

- ート：性差に着目した分析、覚せい剤事犯者が自覚している薬物使用の引き金とメリット・デメリットとの関連. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 36) 近藤あゆみ、嶋根卓也、高橋哲、小林美智子、高岸百合子、大宮 宗一郎、高野洋一、山木麻由子、松本俊彦：ミニセッション S5 「覚せい剤事犯者の理解とサポート：性差に着目した分析、覚せい剤事犯女性の出所後の薬物依存症治療. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 37) 引土絵未、嶋根卓也、小高真美、ほか：薬物依存症者の就労に関する研究：特例子会社を対象とした依存症者の就労に関する意識調査, 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 38) 大宮宗一郎、嶋根卓也、近藤あゆみ、高岸百合子、小林美智子、酒谷徳二、服部真人、喜多村真紀、伴恵理子：薬物関連問題と飲酒問題を有する覚せい剤事犯者の特徴: 信頼感に注目した分析から. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 福岡, 2020.11.21-22.
- 39) 小林美智子、服部真人、酒谷徳二、嶋根卓也、谷真如、高橋哲、大宮宗一郎：薬物依存、アルコール依存、ギャンブル障害の各問題から見た覚醒剤事犯受刑者の特徴, 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 40) 猪浦智史、加藤隆、嶋根卓也：薬物依存症回復支援施設における生活習慣病予防教室の試み. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, Web, 2020.11-22-23.
- 41) 服部真人、小林美智子、嶋根卓也、高橋哲、高岸百合子、大宮宗一郎、谷真如：薬物依存と他の依存（アルコール・ギャンブル）の併存が疑われる薬物事犯者の特徴. 第 58 回日本犯罪心理学会, Web, 2020.11.21-22.
- 42) 山田理沙、嶋根卓也、近藤あゆみ、米澤雅子、松本俊彦：薬物依存症者を対象とした薬物使用の影響によるコンドームを使用しない性交渉に関連する研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会, Web, 2020.11.27-29.
3. 知的財産権の出願・登録状況
- 該当なし